

平成 24 年度(第 21 回)職業訓練教材コンクールの総評

職業訓練教材コンクール審査委員長

1. はじめに

職業訓練教材コンクールは、「公共職業訓練又は認定職業訓練等において、訓練を担当する職業訓練指導員が開発した教材のうち、その使用により訓練の実施効果が上がり、創意工夫にあふれ、広く関係者に普及するに足る優れたものを選定し、その成果をたたえることによって職業訓練指導員の技術水準の向上を図り、もって職業訓練の推進とその向上に資すること」を目的として、厚生労働省、中央職業能力開発協会、高齢・障害・求職者雇用支援機構の共催により行われました。

2. 応募の状況

今回の応募状況は74点で、その内訳は、都道府県立職業能力開発施設14点、認定職業訓練施設等8点、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構立職業能力開発施設52点となり、前回(平成22年度)と比較すると11件の増加となりました。職業能力開発の充実に向けた関係職員の積極的な活動を反映したものと思われま

す。分野別では、機械加工・製図関係分野17点、電気・電子関係分野21点、情報・事務・福祉関係分野16点、建築・木工・デザイン関係分野9点、産業機械・メカトロ関係分野5点、その他の分野6点となり、主要なものづくり分野を中心に幅広い分野で応募がありました。

また、障がい者対象の教材の作品の応募も多くなり、全体的な完成度の高さから、入選作品も多くなってきております。

3. 総評

(1) 完成度、信頼性

応募作品は、おおむね実際の訓練において活用されているものですが、その中でも入選作品は、訓練教材の目的、対象者、到達度等を明確にし、より実際の製品や作業をイメージした完成品と、作業の手順やポイント等を整理したテキスト教材とを組み合わせる等、全体的に教材としての完成度の高い内容でした。

一方、応募作品の中には、訓練教材の完成品のみを応募されたものが複数ありましたが、訓練の対象となる技能・技術要素、指導・利用方法が不明確であり、製品そのものが持つ完成度は評価できるとしても、教材としては未

完成と言わざるを得ません。訓練受講者に提示する訓練課題の目的、作業手順、ポイント等を記載した資料との組み合わせを望みます。

なお、応募作品の一部に著作権や商標の確認が必要と思われる表現・図表等を利用している訓練教材が見受けられました。（※）。

（２）効果的な教材の使い方

動画、写真、イラスト等の視聴覚教材や表計算等のソフトウェアを利用した教材が多く応募されていますが、それだけで訓練を行うことはなく、実際には、職業訓練指導員が作業手順やポイント等を示しながら行うこととなります。

入選作品では、視聴覚教材等と作業手順等を示したテキスト教材をうまく連動させ、集合訓練における効果的な指導を実現しています。これにより、訓練時間外での自学自習や予習復習を可能とし、訓練受講者の習得度向上が期待できる点も評価できます。

（３）訓練実施を踏まえた改善

応募作品は、日頃の訓練指導において、「こうしたらより良い訓練ができる」「訓練受講者の習得度が向上する」というニーズをもとに、職業訓練指導員の皆様が創意工夫をされたものばかりですが、その中でも、入選作品は、企業活動における実作業やその環境を再現した、より実践的な訓練教材であることが評価されました。

また、複数の訓練科が連携して訓練教材や訓練環境を構築するなど、コスト面も含めた創意工夫が見られました。

次回も、多くの方が豊かな発想で作品を応募されることを期待いたします。

※ 参考 （ 於 [基盤整備センター刊行物検索](#) ）

- 調査研究報告書 138 号
「[教育訓練現場における知的財産権に関する調査研究－教材作成時に注意すべき著作権を中心として－](#)」
- 資料シリーズ 16 号
「[教育訓練現場における知的財産権 Q&A-著作権を中心として-\(小冊子\)](#)」

(職業能力開発ステーションサポートシステム (TETRAS) からダウンロードしてください。)

<http://www.tetras.uitec.jeed.or.jp/>